

### 3. 年中組（4歳児うさぎ組）の取り組み

記録：日比野 直美

○平成25年11月8日（金）

牛の絵を描いた。

「牧場に行くの楽しみだね」「早く行きたいね」



○平成25年11月12日（火）

学級全体で、牛について、知っていることを聞いた。

#### 牛について知っていること

- ・「も~~~~~」と鳴く。
- ・草を食べる。リンゴの皮も。
- ・大きさは馬ぐらい。
- ・牛乳を出してくれる。
- ・赤ちゃん牛が、立てるようになったらお父さん牛とお母さん牛と、すぐに離れる。  
(テレビより)

#### 牛乳からできるもの

- ・牛乳をカシャカシャしたりくるくるしたりすると、バターになる。(テレビより)
- ・ミルク
- ・ソフトクリーム
- ・生クリーム
- ・コーヒークリーム
- ・アイスクリーム

○平成 25 年 11 月 13 日（水） 牧場体験当日。



やはりにおいが気になるのか、鼻をつまんだり、ハンカチを出して鼻にあてたりしている。ただ、牧場体験が始まると、そちらに夢中になり、まったく気にしなくなった。男児Mは、あまりのにおいに牛舎にいられず、泣き出して外で待っていた。しかし、牛の赤ちゃんを見に行くときは、ためらいはしたが、Tに促されると入ることができた。



ブラッシング。怖がる子はほとんどいなくて、積極的に触っていた。



ミニブタもさわった。ウシの毛とは全く違うさわり心地を楽しんでいた。



餌やり。口が近いのは怖かったらしく、全体的に腰が引けていたが、次第に慣れてきて、牛に舐められたり牛の歯が当たったりした子もいた。



搾乳の説明を真剣に聞く子どもたち。



牛にこんなに近づいている。搾乳は、親指と人差し指で挟むところが難しかったらしい。Tが上から押さえると、うまく搾乳できた。



男児Gは、動物が大好き。「さわっていい？」と自分から聞き、「気持ちいいね」と言っていた。



牛の出産シーンを見ているところ。出産ということへの興味関心の強さはそこまで高くはないうさぎ組だったが、いざ仔牛が出てきたときには、驚いた様子だった。



生まれたての仔牛を洗っているところ。



弁当後、牛の干し草が入ったロールに乗って遊んでだ。高さが1.2mほどあるため、Tに支えられたり押し上げられたりして登る。降りるときは、一人で降りられる子もいた。



牧場のアイスはとってもおいしかった。母が牧場について行かなかった子どもからは、「アイス、ママにもあげたいな」という声が聞かれた。



↑帰りのバスでも、寝る子は少なく、近くの友達やTと話しながら帰っていった。

○平成 25 年 11 月 14 日（木）

降園前に、学級全体で、写真を見ながら前日の牧場体験を振り返り、気づいたこと、感じたこと、知ったことを取り上げていった。

#### 搾乳

- ・ 搾るところが楽しかった。
- ・ あったかかった。
- ・ ぷにぷにしていた。
- ・ 牛乳があったかかった。
- ・ 気持ちよかった。
- ・ むにむにしていた。
- ・ 牛を触るとあったかかった。

#### 餌やり

- ・ ちょっとびっくりした。
- ・ ご飯を食べてくれてうれしかった。
- ・ 餌やりの場所がくさかった。
- ・ こわかった。
- ・ なめられてびっくりした。

#### ブラッシング

- ・ 尻尾が当たった。
- ・ 牛が目の前に来てびっくりした。

#### 赤ちゃんが生まれた！

- ・ 赤ちゃんが生まれてびっくりした。
- ・ すごかった。
- ・ 赤ちゃんが人間の赤ちゃんより大きかった。
- ・ 初めて見てうれしかった。
- ・ 生まれた赤ちゃんがかわいかった。

★赤ちゃんが、すぐにお母さんと離されたのはどうして？

→（日比野）お母さんはこの後すぐに、みんなが飲むための牛乳を搾りに行ったの。みんなの飲む牛乳は、本当は赤ちゃんにあげる牛乳をもらっているんだよ。だから、大切に飲もうね。

#### 牛について

- ・ 色は？ → 黒・白黒・茶色
- ・ 尻尾は長かった。かわいかった。
- ・ 2歳で大人になる。
- ・ 角は焼いていて、あまり見えなかった。
- ・ 足は4本。
- ・ おっぱいが4つあった。
- ・ 塩をなめていた。

★どうして、牛は「も～」しか言わないの？

→（日比野） どうしてだろうね。牛さんに聞いてみないとわからないなあ。

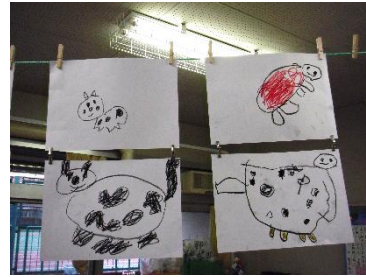
→（別の幼児）でも、牛さんも「も～」しか言わないからわからないよ。

→（日比野） そうだね、わからないね。

○平成 25 年 11 月 15 日（金）

牛の絵を、もう一度書いた。「黒だったね」「茶色のもいたよ」「赤ちゃん、描いていい?」「しっぽ、当たったんだよ」などの言葉が聞かれた。

牛の大きさが印象的だったらしく、以前よりも大きく描いている幼児が多かった。また、色使いが本物の牛らしくなり、模様にも注目している幼児が多かった。乳搾りの経験から、乳首を描いている幼児も数名いた。



○平成 25 年 12 月 17 日（火）

11 月の牧場体験を、写真を見ながら振り返った。どんなことをしたかという質問では、「ミルクを絞った」「ブラッシングをやった」「えさやり」「赤ちゃんが生まれた」「よしよしをした」「手をかまれた」「手をなめられた」と言ったことが出てきた。次の牧場体験で哺乳をすることを保護者から聞いており、とても楽しみにしている様子が見られた。また、担任が「牛乳は本当は、誰にあげるもの?」という問いかけをすると、「人」と言っている幼児もいたが、「赤ちゃん」と言う言葉が聞かれた。「赤ちゃんにあげるものを分けてもらっているから、大切に飲もうね」と伝えた。

○平成 25 年 12 月 19 日（木）

2 回目と言うこともあり、牛を怖がる幼児は少なくなった。匂いのせいで泣いてしまった男児 M は、説明を聞くために席に着いた途端、前回は思い出したのか泣き始めた。担任がそばに寄り添って、「できるものだけでもやろうね」と言うと、「うん」とうなずいていた。実際に体験を始めると、初めが哺乳だったためか、大きな抵抗なくミルクを上げることができた（赤ちゃんに指を吸われることはできなかった）。その流れで、前回できなかった餌やりもすることができた。



牧場体験をする上での注意を振り返ると、覚えている幼児が多かった。  
榎本さんとの再会。



11 月に生まれた子牛との再会。「立ってるね」と喜ぶ姿があった。



哺乳の様子。子牛の力強さにびっくりしていた。  
とてもうれしそうだった。



餌やり。以前来た時よりも積極的な姿が見られた。  
顔を触ってみようとする幼児もいた。



乳搾り。前回は教師と一緒にしている幼児が多かったが、今回は一人で搾っていた。  
あまり繰り返して絞る幼児がいなかったのは、2 回目で新鮮味がなかったからか。（下に考察あり）



昼食。天候不良のため、室内で食べた。榎本さんが各テーブルを回って下さり、子どもたちは少し照れながらも嬉しそうだった。

**考察** 餌やりと比べ、搾乳を繰り返ししなかった 4 歳児の姿について。

餌やりは、餌がなくなるという目に見える形での目標がもてるが、搾乳は絞ることのみなので、4 歳児にとっては絞ることができると繰り返そうとしなかったのではないかと推察される。容器いっぱい溜めるなどの、見える目標があると、張り切ってやったのかもしれない。

○平成 25 年 12 月 20 日（金）

牧場体験の振り返りをした。まず、感想を聞き、その後、食べ物大切さについて話した。

#### 赤ちゃん

- ・なめられて気持ちよかった。 ・ふわふわだった。

★なんで指とおっぱいを間違えるのかな？

→（他の幼児）指とおっぱいは色が似てるんじゃない？

お父さん指はおっぱいに似ている。

- ・すごくかわいかった。双子の赤ちゃんもかわいかった。
- ・ミルクをあげて楽しかった。 ・早く飲んだからびっくりした。
- ・ミルクをあげる時、かたかった（力が強かったの意味）。

#### 大人の牛

- ・ほっぺがあったかかった。 ・餌をあげるのが楽しかった。
- ・体を触って気持ちよかった。 ・搾ったミルクがあったかかった。
- ・2歳で大人になる。

#### 食べ物の大切さについて（概要）

牛は、（女の子なら）6～7歳でお肉になってしまいます。みんながミルクをあげた赤ちゃんは、2歳でお肉になります。みんなは、お肉を食べるのが好きかな？先生は好きです。でも、「いらない」って残してしまっても、みんなに食べられるためにお肉になった牛さんがかわいそうです。牛さんだけでなく、みんなは、豚や、鳥も食べるよね。野菜だって、もともとは生きていた命です。みんなは、命をもらって食べています。だから、好き嫌いせずに、食べ物をできるだけ残さずに食べるようにしましょう。

それから、「いただきます」「ごちそうさま」と言う言葉。これは、ただ言うだけじゃなくて、作ってくれた人と、それからみんなのために食べ物になってくれた動物や植物たちに、心をこめて言う言葉です。そのことをよく考えて、挨拶しましょう。

牛が肉になるという話では、「かわいそう」「切られたら痛いね」という声も聞かれた。真剣な表情になっていた幼児がほとんどで、最後は涙ぐむ幼児もいた。

この後、すぐに弁当の時間になった。いつもよりも「いただきます」と言う声に真剣さがあり、また、自分の弁当のおかずを見ながら、「これ、牛（牛乳）からできてるんだよ」「牛さんのお肉、あったよ」「先生、これは何のお肉？」と、食べ物への興味・関心を深めている姿があった。4歳児にとっては難しすぎる話かもしれないと思ったが、経験できたことは、子どもたちにとってもとてもよかったと思う。

